

	No.	評価項目	評価内容	学校経営目標(具体的な方策)	
				中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)
信頼される教育の確立	1	学校の組織力と学校運営	校長が精度の高い地図と羅針盤をもって明確な経営方針を示し、全職員が経営参画できる同僚性と協働性を高める。	職責に付加価値を付けて遂行する組織を構築する。	具体的な施策と目標の明示経営・運営会議の組織的な運用
	2	安全管理危機管理	児童の安全安心を全てに優先させ、命を守るために、危険予知・未然防止の徹底等、安全管理・危機管理を徹底する。	常に最悪の状態を想定して未然防止・初期対応を期す。	防災・危機対応マニュアルの周知迅速な報告連絡相談の徹底
	3	学校公開情報発信	学校行事や学校公開日などの機会を多く設けるとともに、学校方針や活動状況など、有用な情報を積極的に伝える。	内容・方法・形態等を工夫して多彩に公開・発信する。	学校HPや校長通信等の充実オンラインやデジタル化の推進
	4	カリキュラムマネジメント	教育目標達成のため、教科横断的に各教科等の教育内容を相互に関連付け、配列し、教育課程全体と往還させる。	育てたい子供像を明確にし、教育課程全体を関連付ける。	教科等を関連付けた指導計画総合的な学習の時間の改善
	5	学校・家庭・地域の連携協働	教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。	地域の教育力・教育資源を効果的に教育課程に組み込む。	地域等の人材の積極的活用地域等が参画する授業を増加
	6	共にある教育の実現	学校・保護者・地域が互いに当事者となり、未来の学校の姿を見据えて共通の目標を共有し、教育課程を編成する。	未来の守護者を育てる教育課程を地域とともに作る。	学校関係者評価の充実評価結果を踏まえた教育課程
	7	働き方改革の徹底	全職員が、働き方改革の意義を理解し、野球型からサッカー型の職務行動へと変革し、個が自律した組織とする。	働き方改革推進プランを策定し、教育の質を向上させる。	残業時間毎月45時間以内週1回の定時退勤日の実行
	8	ワンチームでビジョンを共有	通常級、専科、さくら学級、きこえとことば、大空教室、事務職員等、すべてが同一のビジョンを共有する組織とする。	内に開かれた教育を実現し、ワンチームで運営する。	学校経営方針を全職員で共有全職員の役割を明確化する
確かな学力の定着	9	学習習慣・学習規律の定着	学びを生かそうとする主体的に学びに向かう力を涵養するとともに、学習習慣を確立する。	「学びのすすめ」「自主学习ノート」「寺小屋」の推進	授業・補習と家庭学習の一体化宿題に確実に取り組む工夫
	10	基礎・基本的な学力の定着	実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得する。	学力の把握・検証に基づき授業改善を推進する。	各教科等で「書くこと」を重視板書や発問する技術の向上
	11	新たな価値を創造する力	答えのない課題に納得解を導き、新たな価値を創造することができる資質能力を育成する。	他者と協働し学び合い、学ぶ楽しさ、学びに向かう姿勢の向上	探求ノートの効果的な活用自ら考え判断し表現する学習
	12	外部人材ICT活用	各教科等で外部人材やICTを効果的に活用し、児童の興味・関心を高め、自ら学ぶ力や学び合い、教え合う力を付ける。	授業そのものを改革することにより学力を向上させる。	外部人材を有効活用した授業授業でICTを効果的に活用
	13	ユニバーサルデザイン	ユニバーサル・デザインによる分かりやすい授業、やさしい授業、個に応じた指導の工夫に努め、適切な支援を行う。	児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を実現。	児童にやさしい授業を実践特別支援教室等との連携
豊かな心の醸成	14	自己有用感の醸成	個性を生かし、相互の信頼関係を深める中で自己の存在価値の認識等、自己有用感を高める。	自己有用感を高め、児童が個々のよさを発揮できる。	QUを踏まえた特別活動の充実異年齢集団の活動の推進
	15	認知機能・社会性の向上	認知機能を高め、感情統制、対人スキルを養い、自他共に敬意をもって関係する力を付ける。	自他ともに大切にできる豊かな心情を育成する。	認知機能や感情統制の支援やりぬく力、辛抱する力の育成
	16	内面に根ざした道徳性の涵養	自他を大切に、共によりよく生きるために、児童の内面に根ざした道徳性を育成する。	問題解決的あるいは体験を通じた発問構成の工夫	広い視野で考え議論する道徳内面に根ざした道徳性の涵養
	17	心の居場所づくり	一人一人の居場所づくりや心に寄り添う相談など、不登校等、一人で悩みを抱えない相談体制を構築する。	様々な人と関わりをもち、悩みを話せるようにする。	全教員による個の支援・相談SOSを出せる雰囲気醸成
健やかな体の育成	18	新しい生活様式の定着	一人に一つの命を自覚し、新しい生活様式に基づき、全ての人の命を守る意識と行動力を育成する。	健康教育・食育推進計画を改善、充実、徹底させる。	グッドモーニング60分の徹底新しい生活様式の定着
	19	体力・運動能力の向上	基礎的な体力の向上と運動習慣、生涯に渡って積極的に運動に親しむ資質や能力を高める。	体力調査結果を検証・活用し、体育授業を改善する。	元気アップガイドブック活用運動習慣に結びつく授業の工夫
	20	ストレスに対処できる力	心と体の関連性を理解し、様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力を育てる。	学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的に取り組む。	SOSの出し方授業など多様な対処方法を推進
	21	健康管理保健衛生	すべての子供たちが「一人にひとつの命」を自覚し、かけがえない命を自ら守ろうとする意識と行動力を育成する。	全ての教育活動を通して全職員が健康管理に携わる。	感染症拡大防止行動の徹底熱中症防止やアレルギー対応
輝く未来に向かって	21	言語能力の向上	学校図書館の機能の充実を図り、言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力を育成する。	学校図書館活用を中心に、言語活動を充実させる。	学校図書館活用の推進読書感想文への取組
	22	情報活用能力の向上	1人1台端末やオンライン活用を含め、情報活用能力を育成するとともに、新たな解を創造する力を醸成する。	見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	1人1台端末の活用オンラインの活用
	23	国際社会で活躍できる人材	日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備え、多様性を尊重し、共生・共助社会の実現を目指す。	家庭や地域と連携協働した自己実現への手立ての充実	キャリア・パスポート活用調べる学習コンクール参加
	25	特別支援教育の推進	校内委員会を中心に、学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、特別支援教育を組織的に推進する。	校内委員会を中心に共通理解の元、一人を全員で支援	特支リーフレットによる啓蒙校内委員会の定例化、活用